

Vol.7

2014/11

# デジタル・アーキビスト NEWS LETTER

NPO 法人日本デジタル・アーキビスト資格認定機構  
<http://npo-jcbda.jp/>

## メタデータとデジタル・アーカイブの連携

放送大学教養学部 教授 三輪真木子

デジタルカメラやビデオカメラの普及により、だれでも簡単に画像や映像のコンテンツを生み出すことができるようになった。デジタル・アーカイブのコンテンツにも、画像や映像の占める部分が増加し、アーキビストの仕事にはマルチメディアのコンテンツ管理が求められるようになってきている。

コンテンツ管理では、どんなコンテンツを収集し提供し提供するのか、多様なメディアのメタデータをどう付与すれば利用を促進できるのか、公開するにはどのような権利処理が必要か、そして、コンテンツを次世代に伝えるためどうすれば長期保存ができるのかといった点が重要である。中でも、メタデータの付与は、コンテンツの多面的な検索に必要であるとともに、アーカイブの持続や他のアーカイブとの連携において重要な役割を果たす。

公共図書館では、地域資料を電子化して、デジタル・アーカイブを構築するものが増えている。その中で、メタデータの標準化が課題として浮かび上がってきている。公共図書館のほとんどは、自治体が運営している。自治体の中には、文書館や博物館、美術館もあり、各々が独自のコンテンツをデジタル化している。同じ自治体の各館がデジタル化したコンテンツの統合検索を可能にするには、各々のメタデータの基本要素と、それらを記述する語彙やルールを共通にしておく必要がある。

図書や雑誌論文のような、図書館が管理するコンテンツのメタデータについては、目録規則や書誌コントロールを含む国際的な標準化が進んでおり、世界中の図書や雑誌論文のメタデータが一定のルールに沿ってデータベース化されている。文書以外のコンテンツについても、ダブリンコア (Dublin Core: DC) というメタデータの基本となる 15 要素と、各項目を記述する際の語彙やルールが定められている。

国際標準に則ってメタデータを付与することは、複数アーカイブの連携にとって必要不可欠である。複数のアーカイブが DC メタデータを採用していれば、標準的な書式や語彙で 15 要素が記述されているので、それらの統合検索が可能になる。言語が異なっても、メタデータを翻



訳することで、統合検索が可能となる。一方、日本の自治体のように、各々のアーカイブで異なるメタデータ要素を独自の書式で付与していると、統合検索は困難となる。

デジタル・アーカイブには、貴重なコンテンツを次世代に引き継ぐために、長期にわたって継続的に管理し利用に供することが求められている。しかしながら、財政難や人材不足により、あるアーカイブの構築や運用が中断されることも多い。中断してしまったアーカイブで DC メタデータが採用されていれば、それは他の類似アーカイブに統合できるので、すでに収録したコンテンツを引き継ぐことができる。

文書等の文字情報で構成されるコンテンツの場合は、テキストデータから DC メタデータのかなりの部分を自動で付与することが可能である。たとえば、タイトルは文書のタイトルを、著者は文書の作成者を、キーワードは目次や本文から抽出することができるだろう。

他方、文字を含まない画像や映像の場合は、人手により DC メタデータを作成することが必要となる。写真のタイトルにあたるキャプションは、その写真を撮影した人しか付与できないだろうし、制作者（撮影者）も本人が登録しないとわからなくなってしまう。キーワードも、撮影者がどんな意図でその写真を撮ったのかわからないと、適切なものを付与できないだろう。写真を撮影した人の著作権情報や、写真に写りこんでいる人の肖像権といった権利情報の処理も課題となる。収集したコンテンツにあとから第三者がメタデータを付与するのは、手間がかかり誤りも生じやすくなるが、写真の撮影者がコンテンツをアーカイブに登録する時点でメタデータを付与すれば、比較的容易に付与することができるだろう。

日本でデジタル・アーカイブを普及させ、次世代に引きついでいくには、マルチメディアのコンテンツを扱う複数の機関の間で、メタデータ要素と記述書式を標準化することが望まれる。

## ダブリンコアメタデータ要素群

要素名	英語名	説明
タイトル	Title	情報資源に与えられた名前
著者・作成者	Creator	情報資源の知的内容の作成に主たる責任をもつ実体
主題	Subject	情報資源の内容のトピック
内容記述	Description	情報資源の内容に関する説明記述
公開者	Publisher	情報資源を利用可能にしたことに責任をもつ実体
寄与者	Contributor	情報資源の内容に知的に重要な貢献をした実体
日付	Date	情報資源が作成された、あるいは有効になった日付
資源タイプ	Type	情報資源の内容の性質、種類
フォーマット	Format	物理的もしくはデジタル形式での表現形式
資源識別子	Identifier	情報資源を一意に識別するための文字列もしくは番号
情報源	Source	当該情報資源を作り出す元になった別の情報資源に関する情報
言語	Language	情報資源の知的内容の言語
関係	Relation	関連する情報資源への参照
時間的・空間的範囲	Coverage	情報資源の知的内容に関する空間的(地理的)、時間的(歴史的)特性
権利関係	Rights	権利関係に関する情報、あるいはその情報へのリンク

# デジタルアーカイブ in 岐阜 2015 を開催します

日時:2015年2月10日(火)～11日(水・祝)

主催:特定非営利活動法人 日本デジタル・アーキビスト資格認定機構

共催:岐阜女子大学

後援:岐阜県(予定)、日本教育情報学会(予定)、特定非営利活動法人日本アーカイブ協会(予定)

会場:岐阜女子大学文化情報研究センター(岐阜市明徳町10 杉山ビル)

2月 10日	<b>デジタルアーカイブ研究会</b>		
	13:00-17:00		
2月 11日	基調講演 10:00-11:00	<b>恐竜から現代の鳥類へーデジタルアーカイブの教育利用</b> 真鍋真(国立科学博物館地学研究部生命進化史グループ長) 日本の恐竜研究のトップランナー。凸版印刷と協働で国立科学博物館が収蔵するティラノサウルスとトリケラトプスの骨格標本を精確に三次元デジタル計測し、最新の研究成果をもとにバーチャルリアリティ(VR)コンテンツ化した『V×R(ブイ・アール)ダイナソー』を開発するなど、博物館ICT化を牽引している。	
	シンポジウム 11:10-12:00	<b>デジタルアーカイブの効果的活用</b> パネラー 真鍋 真 その他、学校教育、博物館、デジタルアーカイブコンクール応募校関係者を予定	
	昼食 12:00-14:00	<b>デジタルアーカイブコンクール表彰式</b> 12:45-13:45	<b>最新技術説明会</b> 12:45-13:45
	セッション 14:00-16:30	ICT教育 <b>協働学習とタブレットPC活用の具体的展開</b> 熊本県教育庁 山本朋弘氏	デジタルアーカイブ <b>地域プラットフォーム創出にむけたデジタルアーカイブとオープンデータ</b> 長野大学 前川道博先生
		<b>ネット社会におけるメディアリテラシー</b> <b>～子どもたちのネット事情～</b> Willさんいん 長谷川陽子氏	<b>地域デジタルアーカイブの活用</b> 株式会社アーキネット代表取締役 伊勢博氏
		博物館 <b>博物館と震災デジタルアーカイブ</b> 常磐大学 坂井知志先生	図書館 <b>デジタルアーカイブへの取り組みの成功と反省</b> 凸版印刷株式会社 関西情報コミュニケーション事業部 大橋秀亮氏
		<b>学校が活用できる博物館デジタルアーカイブ</b> 岐阜女子大学 井上透	<b>北摂アーカイブスについて</b> <b>～地域の記憶を記録するということ～</b> 豊中市立岡町図書館 副館長 西口光夫氏
	企業展示	※昨年度出展企業 株式会社 日立製作所・富士通株式会社・シャープビジネスソリューション パナソニックシステムネットワークス株式会社・株式会社 アポロクリエイト 株式会社 堀内カラー等 11社	

詳しくはホームページをご覧ください。(http://www.gijodai.ac.jp/dagifu/)

※「デジタルアーカイブ in 岐阜 2015」は CPD 制度の認定講習会に位置付けられます。

CPD 制度をご利用の方は是非ご参加ください。

## 第18回デジタルアーカイブコンクール

主催：特定非営利活動法人 日本デジタル・アーキビスト資格認定機構

共催：岐阜女子大学

高校生、大学・大学院生をはじめ一般の方を対象に、地域文化の理解や再発見、デジタルアーカイブ作成・活用の和を広げるために、デジタルアーカイブコンクールを開催しています。

学生のみなさんは、授業や夏休みの宿題、クラブ活動などで作った作品を、社会人の方は、仕事で培った知識や、長年の趣味を生かした作品の応募をお待ちしております。

特に今年度のデジタルアーカイブ部門では、従来の地域資料のデジタルアーカイブ化に加え、自然観察や科学的研究を対象にしたデジタルアーカイブ作品の応募をお待ちしております。

また、高校生のみなさんを対象にした沖縄修学旅行おうらい部門や、デジタル教科書、電子黒板の導入で、近年デジタル化が活発に行われている教材を対象にした教材クリエイター部門も昨年引き続き設けております。

デジタルアーカイブの新しい活用を提案された作品の応募を期待しています。

募集期間	平成26年8月1日(金)～12月10日(水)(当日消印有効)
出品料	無料(複数応募可)
表彰式	表彰式:平成27年2月11日(水) 会場:岐阜女子大学文化情報研究センター

コンクールの詳細は、ホームページをご覧ください。(http://www.gijodai.ac.jp/dac/)

### 準デジタル・アーキビストの新しいテキストができました。

「デジタルアーキビスト入門」

定価 800円

特定非営利活動法人日本アーカイブ協会

お求めは「特定非営利活動法人日本アーカイブ協会」

URL: <http://www.npo-nak.com>

E-mail: [shikaku@npo-nak.com](mailto:shikaku@npo-nak.com) まで

なお、2015年2月にこのテキストに基づいた「準デジタル・アーキビスト資格」認定試験及び講座を東京にて開講予定です。



■ 事務所：岐阜女子大学文化情報研究センター内

東日本支部：常磐大学コミュニティー振興学部 坂井研究室内

□ 養成機関

岐阜女子大学、常磐大学、奈良産業大学、別府大学、東北文教大学短期大学部、  
沖縄女子短期大学、上田女子短期大学、NPO法人日本アーカイブ協会、(株)レ・サンク

NPO法人日本デジタル・アーキビスト資格認定機構〈JDAA〉

<http://jdaa.jp/> 問い合わせ：E-mail: [info@npo-jcbda.jp](mailto:info@npo-jcbda.jp)